

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2008～2010

課題番号：20330175

研究課題名（和文）深層構造としての教育文化解明のための比較教育文化（「モノ」「コト」）史研究

研究課題名（英文）Comparative Historical Study of Educational Culture (Materials and Events) for Elucidation of Educational Culture as Deep Structure

研究代表者

添田 晴雄 (SOEDA HARUO)

大阪市立大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：30244627

研究成果の概要（和文）：深層構造としての教育文化の概念を仮説的に整理してそれを提唱するとともに、学校建築、教室、学校給食、学校掃除、制服、子ども服、学校行事、博物館、教員教育・学習メディアとしての音声言語・文字言語、黒板などの教具、学習具等のモノ・コトに着目して、いくつかの外国と日本における教育事象の比較考察を行い、それぞれの国における深層構造としての教育文化を明らかにしようとした。

研究成果の概要（英文）：The concept of educational culture as deep structure has been hypothetically examined and suggested. Comparative researches with viewpoints of materials and events in education, such as school architecture, classrooms, school lunch, school cleaning, school uniform, children's clothes, school events, museums, oral/written language as instruction/learning media, teaching tools including blackboards, and learning tools, have been conducted and educational cultures in Japan and several countries have been clarified.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
2009年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
2010年度	2,200,000	660,000	2,860,000
総計	9,800,000	2,940,000	12,740,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：比較教育文化、教育史、モノ・コト、学校建築、教具、音声言語、給食

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者および研究分担者は、これまで、学校建築、黒板などの教具、文具、制服、文化祭などの学校行事、学校給食、学校掃除、教育・学習メディアとしての音声言語・文字言語などのモノやコトに着目して、自らの得意とする外国と日本の教育について比較研究を行ってきた。また、研究代表者は、「習慣化による受信濾過」という概念を使い、ある国の教育文化のうち極めて本質的な事項

が、あまりにも日常的であるゆえに、当事者には意識されず、文献にも残りにくい状況にある中、モノとコトに着目することと、比較考察を行うことによって、その受信濾過を除去することができる旨を指摘した（『『モノ』『コト』による比較教育史の可能性—学習具の歴史を事例に一」、教育史学会50周年記念出版編集委員会編『教育史研究の最前線』日本図書センター、2007年）。その中で、教育事象や教育文化の中には、時代の変化に敏感に常

に変化しているものと、100年単位でも変化の様子が緩慢なものがあることがあり、後者のもつ影響力が前者より大きいのではないかとの仮説を持つにいたった。

## 2. 研究の目的

現在の教育改革や教育実践改善の課題と展望を考察する基盤とするために、まず、教育におけるモノ・コトに着目し、(i)日本と他国との教育実態を比較考察・歴史考察によって明らかにし、かつ、(ii)教育制度・思想、教育実態・慣行といった表層構造に通底する深層構造としての教育文化を解明することを目的とする。

## 3. 研究の方法

各研究分担者の得意とする国におけるモノ・コトのうちもっとも関心のある事項を選び、そのことについて、比較考察を行う。次に各自が表層構造と深層構造における教育文化を仮説的に想定する。そして、全体の研究会で、比較考察の結果を発表すると同時に深層構造における教育文化とは何かを意見交換する。その結果に基づいてふたたび各自で深層構造としての教育文化を想定し直し、各担当の国と日本との比較考察を深める。これを数回繰り返して、深層構造としての教育文化の概念を整理するとともに、日本と担当国における深層構造としての教育文化を明らかにしていく。

## 4. 研究成果

研究成果のひとつは、各研究分担者が行った国別の研究・考察に基づき、深層構造としての教育文化の概念を整理したことである。

まず、「深層」「表層」という表現は、相対的な呼称であり、「深層」と「表層」の境界があるわけではない。また、「構造」とは、日常化による受信濾過を受けて意識されることが多いものの、当事者の教育観や教育・教育行動に大きく影響を与えている枠組みを指す。

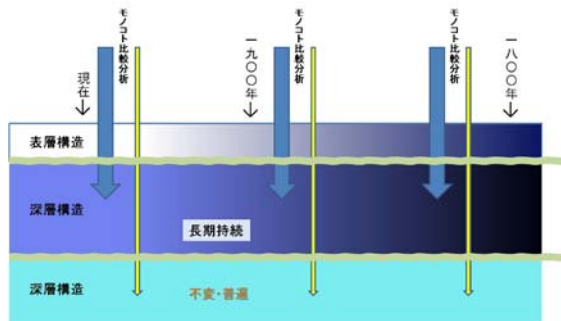


図1 深層構造としての教育文化 時間軸的展開

深層構造としての教育文化を時間軸的展開で表現したのが図1である。表層に位置する教育実践は時代の変化とともにめまぐる

しく変化するが、50年～100年の期間を俯瞰すればほぼ同じような深層構造が存在する。さらに何百年という期間で俯瞰すれば、さらに深い層にあるほとんど変化しない構造がある。

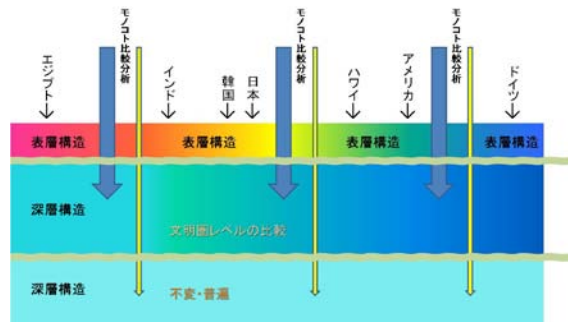


図2 深層構造としての教育文化 空間軸的展開

深層構造としての教育文化を空間軸的展開で表現したのが図2である。表層においては、隣接する国の間で著しく異なる教育事象であっても、文化圏レベルに俯瞰してみると共通点が多いことがある。それが空間的な深層構造としての教育文化であり、さらに深部にあることが想定されるのが人類共通の普遍的な教育文化である。

もうひとつの研究成果は、この「深層構造」という概念を用いて、各研究分担者の得意とする国における「モノ・コト」から考察できる教育文化を明らかにしたことである。

たとえば、教育・学習場面における音声言語・文字言語の果たす役割に注目すれば、中近世、近代、現代と時代が変遷するにつれて、毛筆、石筆、鉛筆、シャープペンシル、半紙、石盤、練習帳、コンピュータ等、表層にある教育テクノロジーがめまぐるしく変化した。文字依存性の強い日本語に根差した深層構造としての教育文化はほとんど変化せず、中近世でも現代でも、無意識のうちに文字を多用する教育・学習慣行が他国との比較によって確認される。さらに、明治初期、近代的学校教育制度の模範とした西洋の学校建築には存在した recitation room (暗誦室) が、その情報が入手されながらも日本には導入されなかったことも、音声中心ではなく文字が重視される深層構造としての教育文化が作用しているものと考えられる。

また、学校給食は、日本、ハワイ、韓国いずれの国にも存在するが、それを規定する深層構造としての学校文化を分析すると、日本とハワイとの比較では、ハワイの給食は福祉の一環として位置づけられているのに対し、日本の給食は教育の一環として行われている。両国とも近年、食育の観点がとりいれられているのに対し、日本では給食時間以外の教科学習にも広がりを見せているところにも違い

が見出せる。一方、日本と韓国は、両国とも教育の一環として位置づけられている点は似ているが、韓国の場合、給食当番の役割が限定的であったり、食べ始め、食べ終わりの時間が個人によってまちまちであるのに対し、日本の給食は望ましい集団を通して給食の準備をしたり食事を楽しんだりすることを重視しているといった違いが見出される。同様の深層構造としての学校文化の差異は、日韓の学校掃除の比較考察からも考察できる。

このほか、わが国の学校観・学習観の深層には「質朴堅牢」主義が横たわっていること、博物館の建物や立地そのものにも深層構造としての教育文化が読み取れること、セーラー服や子ども服の変遷や導入にあたって深層構造としての教育文化が作用していること、オーストラリアの海峽島嶼民の文化が現代の学校文化に根付いていること、日米における教員の職務分担の在り方の違いからそれぞれの教育文化の特質が見出せること、などが明らかとなった。

なお、これらの研究成果は、冊子体の『研究談叢比較教育風俗』第11号、全191頁、平成22(2010)年3月25日、および『研究談叢比較教育風俗』第12号、全187頁、平成23(2011)年3月25日)として刊行されている。加えて、その内容はPDF化され、[http://educa.lit.osaka-cu.ac.jp/~soeda/nakami/papers\\_pdf/papers\\_pdf.html](http://educa.lit.osaka-cu.ac.jp/~soeda/nakami/papers_pdf/papers_pdf.html) で一般公開されている。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計28件)

①添田晴雄、深層構造としての教育文化、研究談叢比較教育風俗、査読無、12号、2011、pp.1-18

②川口仁志、学制期における小学校建築基準の形成(その2)―第一大学区第一回教育会議「学校建築法ノ議」の影響について―、研究談叢比較教育風俗、査読無、12号、2011、pp.19-36

③柴田政子、追体験で学ぶという教育のコト：博物館教育の意味、研究談叢比較教育風俗、査読無、12号、2011、pp.37-50

④出羽孝行、韓国における学校掃除―現状とその教育的意義について―、研究談叢比較教育風俗、査読無、12号、2011、pp.51-72

⑤田中圭治郎、アメリカ合衆国における食育政策と実態、研究談叢比較教育風俗、査読無、12号、2011、pp.73-90

⑥岡本洋之、セーラー服を「結界のしるし」と考える―深層に生き続けるケガレ観念を

探りつつ―、研究談叢比較教育風俗、査読無、12号、2011、pp.107-121

⑦伊井義人・青木麻衣子、モノ・コトとしての学校再考―トレス海峽島嶼民にとって「異なる」ものとしての学校―、研究談叢比較教育風俗、査読無、12号、2011、pp.143-159

⑧梶井一暁、一九世紀末における外国人の日本見聞―イギリス人旅行写真家ベンジャミン・ストーンの場合①―、研究談叢比較教育風俗、査読無、12号、2011、pp.161-186

⑨田中圭治郎、公教育制度における公共性の限界と今後の展望、教育学部論集(佛科大学教育学部)、査読無、第22号、2011、pp.117-132

⑩出羽孝行、中国朝鮮族学校による韓国の学校との姉妹校交流―朝鮮族学校からの認識に着目して―、龍谷大学教育学会紀要、査読無、第10号、2011、pp.1-17

⑪出羽孝行、韓国の学校が中国朝鮮族学校と行う姉妹校交流の実際―韓国側からの事例を中心に―、龍谷大学論集、査読無、第474号・475号合併号、2011、pp.99-130

⑫出羽孝行、韓国学校給食序説―現状と課題―、研究談叢比較教育風俗、査読無、第11号、2011、pp.40-59

⑬添田晴雄、高大連携による人間力育成の実践―愛媛大学と附属高等学校の事例―、平成19～21年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書(研究代表者 矢野裕俊)『ポスト義務教育における人間力育成を図る教育プログラム開発のための基礎的研究』、査読無、2010、pp.44-50

⑭ロイ・ロウ著/梶井一暁訳、イングランドにおける学校建築の歴史と意義―その社会的機能の変化に着目して―、研究談叢比較教育風俗、査読無、第11号、2010、pp.1-18

⑮川口仁志、学制期における小学校建築基準の形成―第一大学区第一回教育会議「学校建築法ノ議」の成立について―、研究談叢比較教育風俗、査読無、第11号、2010、pp.19-39

⑯田中圭治郎、ハワイ州における食育行政とその実態、研究談叢比較教育風俗、査読無、第11号、2010、pp.60-73

⑰添田晴雄、板書等の使用からみた日米授業文化比較、研究談叢比較教育風俗、査読無、第11号、2010、pp.93-107

⑱岡本洋之、変形セーラー服にキリシタン弾圧哀史をよむ―大正～昭和戦前の長崎県にみる外来文化への態度―、研究談叢比較

教育風俗、査読無、第 11 号、2010、  
pp.122-139

⑱柴田政子、歴史博物館・資料館における  
課外学習：教育の「コト」国際比較、研究  
談叢比較教育風俗、査読無、第 11 号、2010、  
pp.140-150

⑲伊井義人・青木麻衣子、『トレス・ニュー  
ス』における学校教育の表象—モノとして  
の地域メディア、研究談叢比較教育風俗、  
査読無、第 11 号、2010、pp.151-167

⑳矢野裕俊、学校教職員の職務をめぐる変  
化は起きるのか？—教育相談での外部人材  
の活用を中心に—、研究談叢比較教育風俗、  
査読無、第 11 号、2010、pp.168-179

㉑添田晴雄、江戸時代の寺子屋教育、大阪  
市立大学文学研究科「上方文化講座」企画  
委員会編『上方文化講座 菅原伝授手習鑑』  
和泉書院、査読無、2009、pp.125-159

㉒添田晴雄、学びの一貫性のあるカリキュ  
ラムづくり、初等教育資料、通巻 845 号、  
2009、pt.70-73

㉓Shibata, Masako, Ohkura, Kentaro,  
Globalization and Education in Japan,  
Yearbook of the National Society for the  
Study of Education、査読有、108(2)、2009、  
pp.160-179(担当 160-167)

㉔Shibata, Masako, Wan, Chengxu, Dong,  
Jianhong、Comparative Education in  
Two Asian Contexts: A juxtaposition and  
some questions, Cowen, R. Kazamias,  
A., International Handbook of  
Comparative Education, Part  
Two, Springer、査読無、2009、  
pp.1209-1223(担当 1216-1223)

㉕Shibata, Masako, Ohkura, Kentaro,  
Demystifying the Devine State and  
Rewriting Cultural Identity in the U.S.  
Occupation in Japan, Sobe, N., American  
Post-Conflict Educational Reform: From  
the Spanish-American War to  
Iraq, PalgraveMacmillan、査読無、2009、  
pp.129-145(担当 129-133)

㉖青木麻衣子、伊井義人、トレス海峡島嶼  
地域における「教育」・「学校」観の変容、  
オーストラリア研究、査読有、第 22 号、  
2009、pp.99-111

㉗柴田政子、アジアにおける日本の『歴史  
問題』—戦後構想と国際政治文脈を比較の  
視点から—、近藤孝弘編『東アジアの歴史  
政策—日中韓 対話と歴史認識』東京：明  
石書店、査読無、2008、pp.210-229

[学会発表] (計 24 件)

①OKAMOTO Hiroyuki, Nagasaki as a  
Historic Filter of Foreign Culture: Viewed  
from the Sailor Suits of Schoolgirls, The  
7th Comparative Education Society of  
Asia (CESA) Biennial Conference (第 7  
回アジア比較教育学会大会)、2010 年 11  
月 11 日、韓国・光州教育大学校

②OKAMOTO Hiroyuki, Perseverance:  
The History of Kirishitan Community at  
Urakami on the Northern Side of  
Nagasaki City (1638-1966)、동북 아시아  
문화 학회 (東北亞細亞文化學會)、第 21  
次国際学術大会、2010 年 10 月 23 日、韓  
国・釜慶大学校大淵キャンパス

③OKAMOTO Hiroyuki, [招待講演]  
Perseverance: The History of Kirishitan  
Community at Urakami on the Northern  
Side of Nagasaki City, Kyushu Island  
(1638-1966)、부경대학교 동북아시아문화  
연구소 국제 심포지움 (釜慶大學校東北亞  
細亞文化研究所國際シンポジウム)、2010  
年 10 月 22 日、韓国・釜慶大学校大淵キャン  
パス

④川口仁志、明治前期における小学校建築  
の基準の形成—『文部省示諭』の「小学校  
ノ建築」について—、教育史学会第 53 回  
大会、2009 年 10 月 11 日、名古屋大学

⑤岡本洋之、潜伏と忍耐、そしてケガレー  
変形セーラー服を手がかりとして浦上キリ  
シタン史(1638-1966)の特徴を考える—、  
教育史学会第 54 回大会、2010 年 10 月 10  
日、早稲田大学

⑥川口仁志、学制期における小学校建築基  
準の形成—第一大学区第一回教育会議「学  
校建築法ノ議」の影響について—、日本教  
育学会 2010 年度第 69 回大会、2010 年 8  
月 22 日、広島大学 (東広島キャンパス)

⑦添田晴雄、生涯にわたって子どもたちが  
輝ける力を獲得するために—特別活動にで  
きることを問う—比較教育文化論の視点か  
ら、日本特別活動学会第 19 回大会・公開  
シンポジウム、2010 年 8 月 21 日、名古屋  
学院大学名古屋キャンパス

⑧柴田政子、National History and  
International Politics: Japanese history  
textbook controversy in the Asia- Pacific  
context、The 24th Conference of  
Comparative Education Society in  
Europe、2010 年 8 月 17 日、ウブサラ大学  
(スウェーデン)

⑨添田晴雄、教育文化における深層構造・表層構造—「モノ」「コト」に着目して—、日本比較教育学会第 46 回大会ラウンドテーブル、2010 年 6 月 27 日、神戸大学六甲台キャンパス

⑩川口仁志、教育文化における深層構造・表層構造—小学校建築における質朴堅牢主義に着目して—、日本比較教育学会第 46 回大会ラウンドテーブル、2010 年 6 月 27 日、神戸大学六甲台キャンパス

⑪出羽孝行、教育の一環としての学校給食、日本比較教育学会第 46 回大会ラウンドテーブル、2010 年 6 月 27 日、神戸大学六甲台キャンパス

⑫岡本洋之、浦上キリシタンの潜伏と忍耐（1638-1966）がもつ重み—変形セーラー服を手がかりとして、長崎市がもつ特異性と普遍性を考える—、日本比較教育学会第 46 回大会ラウンドテーブル、2010 年 6 月 27 日、神戸大学六甲台キャンパス

⑬添田晴雄、暗誦（recitation）をめぐる日英米教育文化の比較考察—学校建築と教育・学習メディアとしての音声言語の視点から—、日本比較教育学会第 46 回大会、2010 年 6 月 27 日、神戸大学六甲台キャンパス

⑭田中圭治郎、出羽孝行、田中潤一、学校給食の国際比較、日本比較教育学会第 46 回大会、2010 年 6 月 27 日、神戸大学六甲台キャンパス

⑮岡本洋之、永井隆はなぜ原爆死が神の摂理だと強調したのか？—日本社会の根本問題から考える試み—、동북 아시아 문화학회（東北亜細亜文化學會）、第 20 次国際学術大会、2010 年 5 月 22 日、龍谷大学大宮学舎

⑯柴田政子、The National Past in the Context of International Politics: The treatment of World War II、The International Workshop held by the International Standing Conference for the History of Education and the Institute of Development Studies Kolkata、2010 年 2 月 4 日、カルカッタ大学(インド)

⑰岡本洋之、長崎発『日本学』の可能性—『実利』をキーワードとして考える—、東北亜細亜文化学会第 19 次国際学術大会、2009 年 10 月 17 日、大韓民国私立高麗大学校

⑱岡本洋之、日本のかたちを写し出す国際

貿易港・長崎—『実利』をキーワードとして考える—、韓国立釜慶大学校東北亜細亜文化研究所国際シンポジウム、2009 年 10 月 16 日、大韓民国立釜慶大学校

⑲岡本洋之、戦前の変形セーラー服にキリシタン弾圧哀史をよむ—日本社会と外来文化の接点の一例—、教育史学会第 53 回大会、2009 年 10 月 10 日、名古屋大学

⑳柴田政子、ドイツを中心としたヨーロッパの歴史教育についての一考察、第 44 回フォーラム・ドイツの教育研究大会、2009 年 8 月 29 日、お茶の水女子大学

㉑伊井義人・青木麻衣子、『トレス・ニュース』における「教育」表象—オーストラリアの先住民教育政策に果たすメディアの役割—、日本教育学会第 67 回大会、2008 年 8 月 29 日、佛教大学

㉒柴田政子、博物館における歴史教育：展示と過去の再構築、第 19 回日本国際理解教育学会、2009 年 6 月 14 日、同志社女子大学

㉓出羽孝行、中国朝鮮族学校の学校間交流に対する認識と課題—韓国の学校との交流を中心に—、異文化間教育学会第 30 回大会、2009 年 5 月 30 日、東京学芸大学

㉔岡本洋之、戦前の変形セーラー服にキリシタン弾圧哀史をよむ—試論・外来文化をめぐる長崎の地域性—、東北亜細亜文化学会第 18 次国際学術大会、2009 年 5 月 22 日、中華人民共和国大連水産学院

〔図書〕（計 1 件）

①柴田政子、筑波大学出版会、ドイツにおける歴史教科書問題への取り組み：日本との比較における戦後処理の一側面、2008、45 頁

〔その他〕

ホームページ等

[http://educa.lit.osaka-cu.ac.jp/~soeda/nakami/papers\\_pdf/papers\\_pdf.html](http://educa.lit.osaka-cu.ac.jp/~soeda/nakami/papers_pdf/papers_pdf.html)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

添田 晴雄(SOEDA HARUO)

大阪市立大学・大学院文学研究科・准教授  
研究者番号：30244627

### (2) 研究分担者

田中 圭治郎(TANAKA KEIJIROU)

佛教大学・教育学部・教授

研究者番号：00081951

矢野 裕俊(YANO HIROTOSHI)  
大阪市立大学・大学教育研究センター・教授  
研究者番号：80182393  
川口 仁志(KAWAGUCHI HITOSHI)  
松山大学・経営学部・教授  
研究者番号：60249612  
岡本 洋之(OKAMOTO HIROYUKI)  
兵庫大学・経済情報学部・准教授  
研究者番号：50351846  
柴田 政子(SHIBATA MASAKO)  
筑波大学・人文社会科学研究科・講師  
研究者番号：30400609  
出羽 孝行(DEWA TAKAYUKI)  
龍谷大学・文学部・講師  
研究者番号：20454530  
梶井 一暁(KAJII KAZUAKI)  
鳴門教育大学・学校教育研究科・准教授  
研究者番号：60342094  
伊井 義人(II YOSHIHITO)  
藤女子大学・人間生活学部・准教授  
研究者番号：10326605

(3)連携研究者  
なし